月刊FALCOM MAGAZINE

Vol.46



夢のようなパーティーが組める追加パッチが登場！
『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』最新情報

イラストメッセージ
啄木鳥しんき

ファルコムニュース

ティオのファルコムラジオ
めんどくさいです…
でもがんばりますの舞台裏

12月12日発売！
小説『英雄伝説 空の軌跡 2 黒のオーブメント』の
冒頭を発売前に試し読み！

コミックマーケット87で先行される
エステルキャラソンの舞台裏をお届け！

jdk バンドボーカル・
コテカナのコテ放題♥

jdk バンドドラマー・オカジの
人生半キャラずらし

《Ⅶ組》の特別カリキュラムが本格始動！
英雄伝説 閃の軌跡

《紫電》のバレスタイン
○○○に参る!!
みんな集まれ！
ファルコム学園

アニメ『みんな集まれ！ ファルコム学園』の
新たな参戦キャラクター&
キャストが到着!!



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

THE LEGEND OF HEROES

閃の軌跡II の最新情報が到着!!

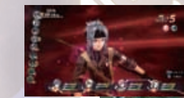
センノキセキII

9月に発売された最新作『閃の軌跡II』の第３弾となるパッチが11月28日より配信開始となった。今回は後日譚ダンジョン「夢幻回廊」でクロウやアルティナをプレイアブルキャラクターとして使うことができるアクセサリが追加されるなど、見どころ満載となっているぞ。

最新パッチであのキャラクター達が使用可能に！ 他にも便利な新機能や、おまけ要素もパワーアップ！

その1：新アクセサリ「幻夢鏡」追加

「幻夢鏡」は、本作のダンジョン「夢幻回廊」の回復装置で購入することができるようになる全５種類のアクセサリだ。これを購入し、パーティーキャラクターに装備させることで、そのキャラクターを、クロウやアルティナ、クロチルダ、ロイド、リーシャに変化させることができるのだ。戦闘中はもちろんのこと、料理ノートやアクティブボイスもそのキャラクターに変化するので、いろいろなボイスを楽しむことができるぞ！



こちらはミリアム&アルティナの「Wオライオン」コンビ。リィン&ロイドコンビや、クレア&クロウコンビなど、どんな掛け合いになるのだろうか……!?

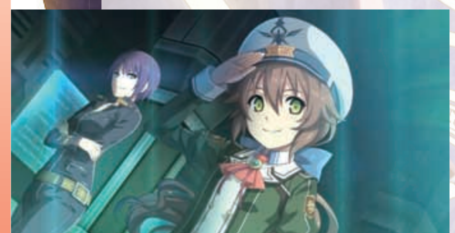




リィン&クロウ、エマ&クロチルダという、夢のようなパーティー編成も可能に！リンクアタックのほかにも、戦闘終了時の掛け合いも新たなものになるので、いろいろな組み合わせを試してみて欲しい。

その2：「MEMORYモード」追加

こちらはその名の通り、各種イベントやムービーをいつでも見ることができるようになる回想モードだ。ゲームクリア後、もしくはクリアデータが無いと見ることはできないので要注意！



こちらはオープニングムービーの一コマ。トワ会長のカレイジャス艦長代理としての凛々しい姿だ。

「外伝らくらく攻略」追加

本作の終章が終わったあとに続く、ロイド＆リーシャの視点となる外伝。装備やアイテムが心もとない中、ボス相手に苦戦した人も多いはず。この機能では､「ロイドたちのレベルを+15する」､「主要イベントのみを見る」など、攻略に便利な選択肢が出るようになったぞ。ただし、こちらも周回プレイ時の追加機能なので気をつけよう。





帝国により再統治されたクロスベルで、ロイドたちが反撃ののろしを上げる外伝。

●製品情報
●タイトル　：英雄伝説 閃の軌跡II
●好評発売中
●ジャンル　：ストーリー RPG
●対応機種　：PlayStation®3、PlayStation®Vita
●プレイ人数：1人
●価格　：
限定ドラマＣＤ同梱版(PS3)：税抜8,800円
限定ドラマCD同梱版（PS Vita）：税抜7,800円
通常版(PS3)：税抜7,800円
通常版(PS Vita)：税抜6,800円
ダウンロード版(PS3)：税込6,800円
ダウンロード版(PS Vita)：税込6,200円
●CEROレーティング：B

みんな集まれ！ ファルコム学園SC

アニメ『ファル学』情報第二弾！ 新たな登場キャラクターは、もちろん最新作の"あの"メンバー！

TOKYOMX・サンテレビにて 2015年1月4日(日)放送スタート!!

2015年1月から放送開始となるアニメ『みんな集まれ！ファルコム学園SC』。前回は初報として、放送日時やキービジュアルをご紹介した。第二弾の今回は、新たにファルコム学園に編入してくる新キャラクターたちの設定画を入手したぞ。そのキャラクターとは……？　キービジュアルをひと目見ればピンと来るはず、そう！　最新作『閃の軌跡II』から、リィンたち《VII組》メンバーが登場だ！



ラウラ・S・アルゼイド
（CV：伊瀬茉莉也）



エリオット・クレイグ
（CV：白石涼子）



アリサ・ラインフォルト
（CV：堀江由衣）



リィン・シュバルツァー
（CV：内山昂輝）



ガイウス・ウォーゼル
（CV：細谷佳正）



フィー・クラウゼル
（CV：金元寿子）



エマ・ミルスティン
（CV：早見沙織）



ユーシス・アルバレア
（CV：立花慎之介）



マキアス・レーグニッツ
（CV：佐藤拓也）

■ 作品情報

『みんな集まれ！ ファルコム学園SC』
【原案】日本ファルコム株式会社
【原作】新久保だいすけ（「月刊FALCOM MAGAZINE」連載中）
【製作】株式会社キャラアニ、株式会社ダックスプロダクション
【放送予定】2015年1月～3月
TOKYOMX・サンテレビにて
1月4日（日）毎週日曜日22：27～22：30
【脚本】山下憲一（「ヒーローバンク」､「マジンボーン」他）
【監督】ぴっぷや（「しばいぬ子さん」､「石田とあさくら」他）
【キャラクターデザイン･作画監督】青葉みずき（「フォトカノ」､「押忍！番長シリーズ」他）
【公式HP】http://www.fal-gaku.com
【コピーライト】©Falcom ／ファルコム学園生徒会

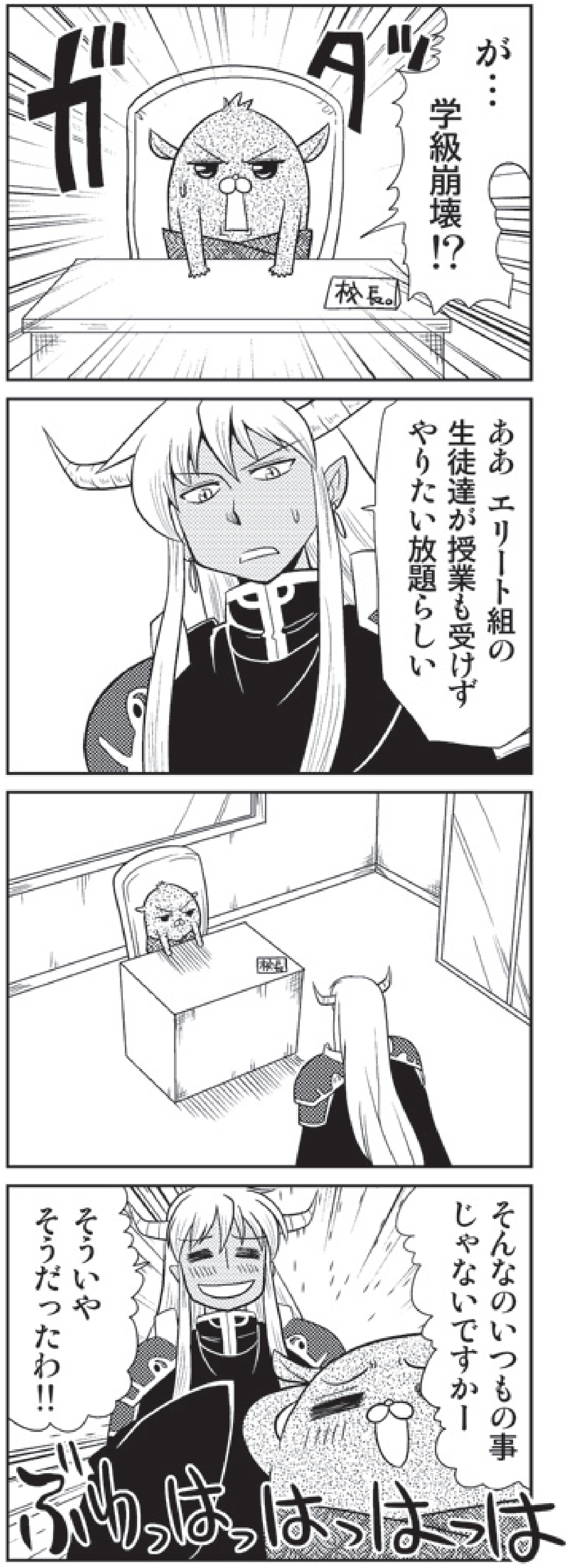
新たなメンバーも加わり、さらに豪華になったキャスト陣の、アフレコレポートも今後掲載予定！　楽しみに待て！



みんな集まれ!ファルコム学園

新久保だいすけ

学級崩壊



サラ・バレスタイン



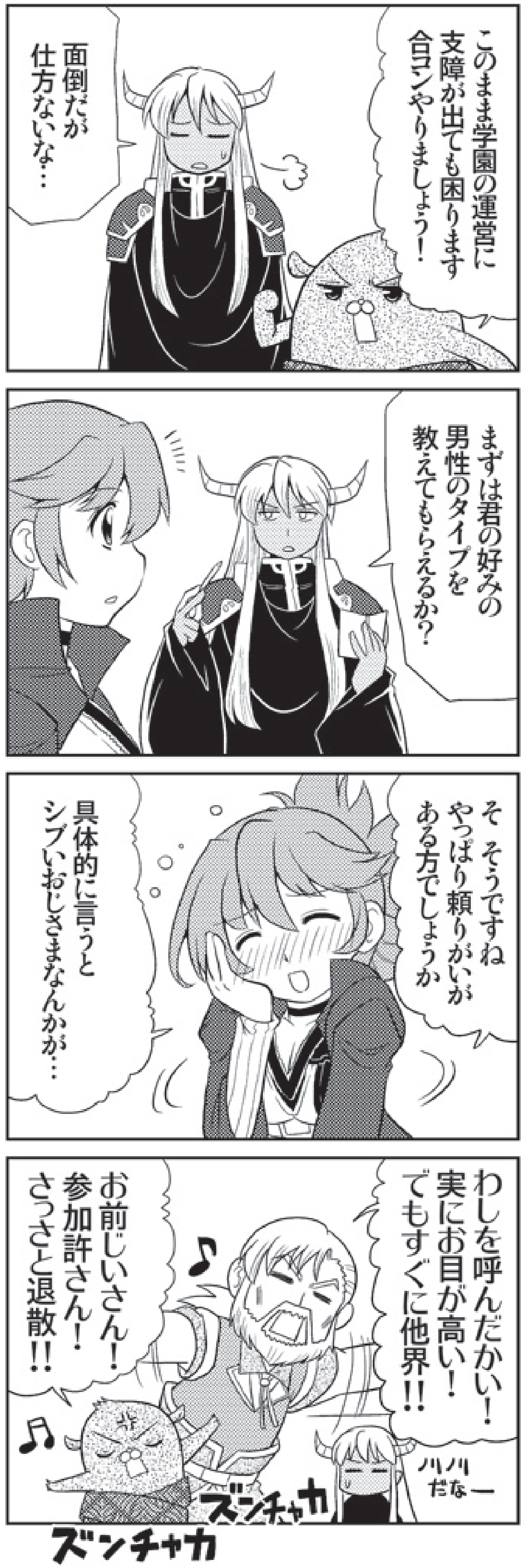
つまらない理由



合コンと○○コン



シブいおじさま



ドラスレファミリー前夜



こう見えて



ぶっ○○してやる



人数合わせ



嘘なき行動



楽しい話題



カップル成立



コンキでいこう



教官の義務



ケッコンシタイ





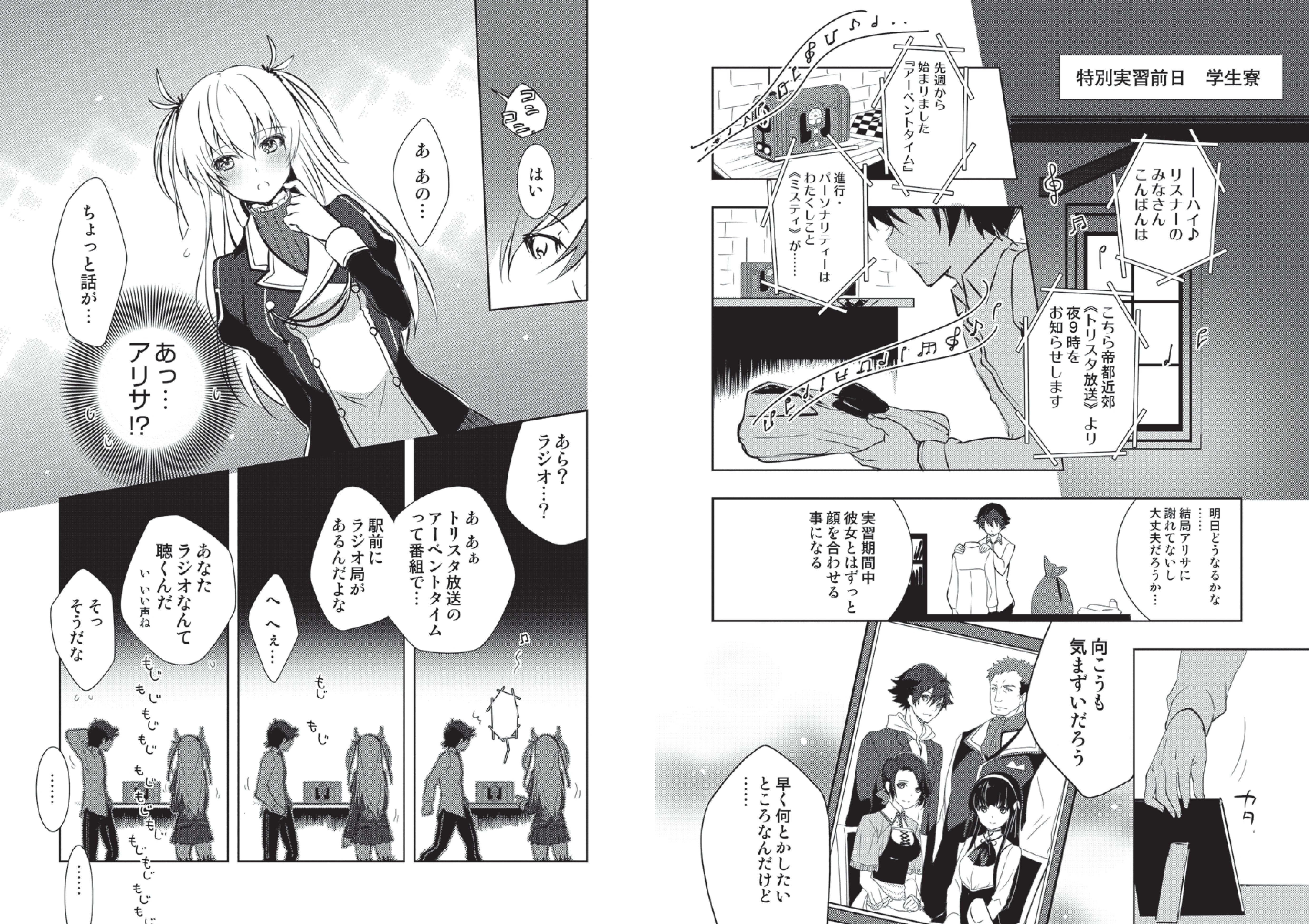
★特科クラス《Ⅶ組》の“スペシャル”なカリキュラムがついにスタート！


う〜ん
あの頃の遺跡って おかしな物ばっかりなのよね あたしの方でも暇を見て 色々と調べてみますよ
よし 今回はご苦労じゃった これからも調査を お願いすることに なるじゃろう
はい 失礼します
パタン
ガチャ
リィン
サラ教官…
あそこの鍵は あなたに 預けておくから 今後もお願いね
実技テスト前に いい腕試しが できたんじゃない?
そうそう テストの後は改めて VII組ならではの 今後の重要な カリキュラムを 発表するからね♪
ん
あ〜テスト! 忘れてたよ…
ま 楽しみに していなさい
じゃ おつかれ〜
……
重要な カリキュラム か……
VII組としての 特別な何かが 始まるという ことだよな
改めて気合いを 入れたほうが よさそうだな
ああ
その前にテスト 大丈夫かな〜
……
実技テスト当日——


ふょ
ふょ
やった…!
うんうん♪ リィン エリオット ガイウスチームは悪くないわね
旧校舎地下での実戦が効いているんじゃないの?


ま 苦戦したチームもあるけどテストは良しとしましょうか
ハッ 結構 大変だったわね…
ゼェ
ゼェ
——さて 実技テストはここまでよ
ここからはかなり重要な伝達事項があるわ
君たちには……《Ⅶ組》ならではの特別なカリキュラムが課せられているわ
《Ⅶ組》ならではの…ですか?
そう それは……ズバリ


《特別実習》よ！
……
ばばぁぁん
【４月特別実習】
A班
リィン、アリサ、
ラウラ、エリオット
（実習地：交易町ケルディック）
B班
エマ、マキアス、ユーシス
フィー、ガイウス
（実習地：紡績町パルム）
サ サラ教官 これは一体!?
このA班・B班に分かれて指定した実習先に鉄道で行ってもらうわ
そこで期間中用意された課題をやってもらうの
……
出発は今週末 各自 それまでに準備を整えておくこと
ふふ、実技テストもなんとか乗り越えられたし張り切ってこのスペシャルな実習に取り組んで頂戴
どういうことだ この班分けは……！
えーと……
……ありえんな
はぁ……。。


特別実習前日　学生寮
――ハイ♪ リスナーのみなさん こんばんは
こちら帝都近郊《トリスタ放送》より 夜9時をお知らせします
先週から始まりました『アーベントタイム』
進行・パーソナリティーはわたくしこと《ミスティ》が……
明日どうなるかな……
結局アリサに謝れてないし 大丈夫だろうか…
実習期間中 彼女とはずっと顔を合わせる事になる
向こうも気まずいだろう
早く何とかしたいところなんだけど
……
カタ
コンコン
はい
あ あの…
ちょっと話が…
あっ…アリサ!?
あら? ラジオ…?
あ あぁ トリスタ放送のアーベントタイムって番組で…
駅前にラジオ局があるんだよな
へ へぇ…
もじ もじ
あなた ラジオなんて聴くんだ
いい声ね
そっ そうだな
もじ もじ もじ もじ もじ もじ もじ もじ もじ もじ もじ
……
……


ごめんなさい！
ごめん！
ど どうして謝るの？
ど どうして謝るんだ？
・・・。
ははっ…
ふふっ…
その……本当にごめんなさい
あれが偶然だったっていうのは最初から判っていたのに……ちょっと気が動転しちゃって


しかも あれ 私を助けようとしてくれたのよね？
いや いいんだ 気にしないでくれ
よかった これなら実習中協力して乗り越えられそうだ…
ありがとう…
それはともかく
貴方に非がないのは認めるけど それとこれとは話は別だからね!?
へ―― えっと 何の話だ？
だだから私があなたの顔に胸を押し付けちゃった――
ゴゴ
ゴゴ
とにかく思い出すのも厳禁だから！
い・い・わ・ね!?


ガタン
ゴトン
特別実習初日——
交易町ケルディック
ワイワイ
宿酒場《風見亭》
INN
ATHERCOC
ええええええ!?
4人相部屋ってどういうことです!?
ゴクゴクゴク
ぷっはあぁぁぁぁぁ!
ごめんね～ サラちゃんに強く言われちゃって
やっぱここの地ビールサイコー!!
まだ昼前なんだけど……
そもそも軍は男女区別なく寝食を共にする世界……部屋を同じくするくらいいずれ慣れる必要もあろう
そうだわ いっそ寝る時に簀巻きにでもすれば……!
ピコーン
はい これ特別実習の内容だよ
あたしはここで楽しんでるから
頑張ってねー♪


サラ教官…なんでB班じゃなくてこっちに来たんだろう？
ぷはぁ～っ
おばちゃんジョッキもう一杯！
あっちの方が心配なんだが…
まさかこの地ビール目当てじゃ…
大丈夫かしらねB班…
ふむ 我らも我らで気を引き締めて行くとしよう
それにしてもこの実習内容の依頼って……
ガサッ
えーと
「東ケルディック街道の手配魔獣」「壊れた街道灯の交換」「薬の材料調達」
……
な…なんかお手伝いさんというか何でも屋というか……


ふむ 一応魔獣退治なども入っているようだが
……
これはもしかして…


いや……
なんでもない
……
ラウラ
どうか
したか？


ふぅ……
少ないと思ったけど
依頼を一通りこなすと
結構時間がかかったね
ケルディックを
あちこち歩き回る
ことになったし
そうねー
依頼を見て
思ったんだが…
多分 実習の
目的のひとつには
そういったものも
あると思う
え？
なるほどね
実際 この町に
ついても本で読んだ
知識くらいしか
ないわけだし……
うーん…
そういった依頼を通じて
見えてくることも
ありそうだね
うむ 帝国はとにかく広い
その土地ならではの実情を
自分たちなりに掴むというのは
得がたい経験になるだろう
ああ 俺も
そう思ってさ
とりあえず今日の
依頼は片付けたし
もう少し周辺を
見て回ってから
宿に帰ろうか
僕 大市に
行きたいな〜
バリアハート産の
宝石や毛皮は
見ておきたいわね
観光ではないぞ…
ザワ
く〜……
ザワ
ザワ
ふざけんなあっ！


ここは俺の出店場所だ！
ショバ代だってちゃんと払ってるんだぞ!?
ばっ
ばんっ
それはこちらの台詞だ！
許可証だって持っている！
君こそ嘘を言うんじゃない！
──あの
何かあったんですか？
うーん
店を開く場所を巡ってのトラブルみたいね
あらまー
ぎゃあ
ぎゃあ
どちらも同じ場所の許可証を持ってるって言うんだけど…
──やれやれ
何をやっておるんじゃ
ザッ
も 元締め……
オットーさん…


ここで争っては他のお客さんの迷惑じゃ
向こうで事情は聞くから
いったん矛を収めるがいい
何とか話が付きそうね
ああ
この大市の責任者らしいな
む…
おや
その制服
お前さんたちはもしかして……
それではあなたが実習の《依頼》を？
うむ 士官学院のヴァンダイク殿とは旧知の仲での
適当な頼み事を見繕って欲しいと頼まれたんじゃ

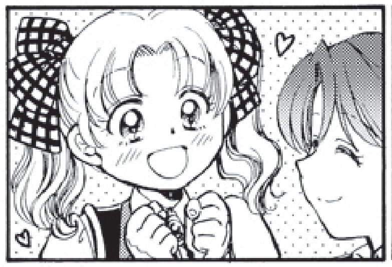


それにしても先程はお見苦しいところをお見せした……
結局 先ほどの場所は交替で使うことになったみたいですね？
うむ どちらの許可証も本物じゃったからの
どちらも…？
市の許可証というのは本来領主の名で発行されるもの 此度のような手違いはいささか腑に落ちぬのだが
そうじゃのう 本来であれば公爵家がその管理をするのじゃが……
公爵家…
クロイツェン州を管理する《アルバレア公爵家》ですね
うむ しかし最近少しばかり面倒なことになっていてな
面倒なこと……？
実は先日 大市での売上税が大幅に上がってしまったんじゃ
売り上げから相当な割合を州に納めなくてはならなくなった分 商人たちも必死になっていてな
先ほどのような喧嘩沙汰にまでなってしまうことも珍しくない
当然 バリアハートにある公爵家には何度も陳情に出かけたが 門前払いといった感じでな……
その状況がふた月ほど続いておるのじゃよ
……
そうなると許可証の手違いも何か理由がありそうだな
そ それって……
ずさんな手続きの処理……もしくは意図的な嫌がらせね


……まあ さすがに決め付けるのも良くないが
ただ 先ほどの騒ぎにしても以前なら詰め所の領邦軍が仲裁に駆けつけてきていた
あっ……
帝国を護る正規軍とは違い 領邦軍は各地を維持するのが役目
本来ならば仲裁するのが普通だろう
うむ……どうやら増税に対する陳情を取り消さぬ限り大市には不干渉を貫くつもりらしい
そんな……
いや 余計なことまで話してしまったようじゃな
そろそろ宿に戻りなさい
INN
……
――他家のやり方に口を差し挟むつもりはないが


此度の増税と露骨な嫌がらせはさすがに問題だろう
アルバレア公爵家当主……
えっとユーシスのお父さんだよね？いっそユーシスに相談するわけには……
難しいだろうな 当主の決定は絶対だ
ましてアルバレア家は皇帝陛下に次ぐぐらいの権力を持っているでしょうしね
あぁ～
やっぱり無理かぁ～～
リィン
おはよう 早いな
おはよう ラウラも素振りしに？
ああ つい習慣でな

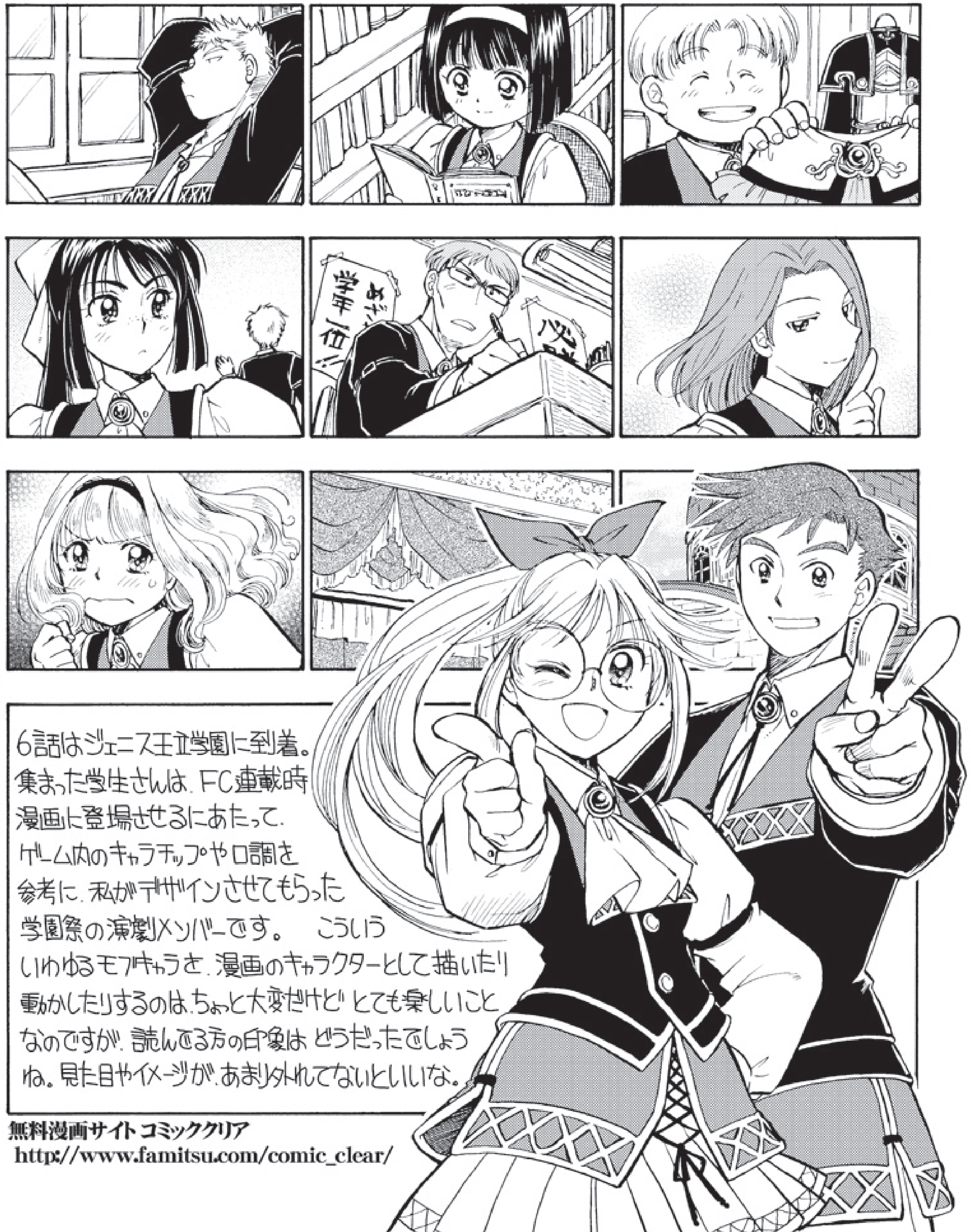
★無料漫画サイト「コミッククリア」にて『英雄伝説 空の軌跡SC』を連載中の啄木鳥しんき先生が、執筆のこぼれ話をお届けしていきます♪



リベール通信号外

FALCOM MAGAZINE 出張版

2014.11. BY 啄木鳥しんき



6話はジェニス王立学園に到着。集まった学生さんは、FC連載時漫画に登場させるにあたって、ゲーム内のキャラチップや口調を参考に、私がデザインさせてもらった学園祭の演劇メンバーです。　こういういわゆるモブキャラさ、漫画のキャラクターとして描いたり動かしたりするのは、ちょっと大変だけど とても楽しいことなのですが、読んでる方の印象は どうだったでしょうね。見た目やイメージが、あまり外れてないといいな。



英雄伝説 碧の軌跡

いつか貴方とお茶会を

著者:むらさきゆきや
イラスト:窪茶



『月刊 Falcom magazine』で好評を博した『英雄伝説 零／碧の軌跡』の主人公・特務支援課がゆる〜く活躍するノベライズ作品の第二弾がついに発売！ 今回もゲーム本編とはひと味違った魅力満載の小説となっているぞ！

好評発売中!!

定価：1,100円+税

ISBN：978-4-89610-821-7

発行：フィールドワイ
発売：メディアパル

フィールドワイのHPはこちら → www.field-y.co.jp

英雄伝説 零の軌跡

四つの運命

著者：田沢大典　イラスト：松竜



特務支援課はここから始まった!!

日本ファルコムの大ヒットＲＰＧ『英雄伝説 零の軌跡』から、ロイドたち特務支援課の過去エピソードを描いたオフィシャルノベライズ。ゲーム本編では語られなかった名シーンの裏側やキャラクターそれぞれの心情が今、明らかになる！

原作：日本ファルコム
（『英雄伝説 零の軌跡』）

価格：1,100 円＋税

ISBN:978-489610-215-4

全国書店にて大好評発売中!!

発行：フィールドワイ
発売：メディアパル

フィールドワイのHPはこちら → www.field-y.co.jp

『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』×『チェインクロニクル』コラボ

大人気RPGにⅦ組メンバーがエントリー!



スマホ向けRPG『チェインクロニクル～絆の新大陸～』、Vita版『チェインクロニクルV』と『閃の軌跡Ⅱ』がコラボレーションを展開！ Ⅶ組メンバーそれぞれの固有ストーリーが楽しめるぞ。また、スマホ版の12月2日～、Vita版の12月16日～のコラボ開始までに事前登録を済ませると「"西風の妖精"フィー」がもらえるキャンペーンを開催中。詳しくは公式HPまで→http://chronicle.sega-net.com /sen2_cp/

閃の軌跡Ⅱ 卓上カレンダー プレゼントキャンペーン

ファルコム作品で机を飾ろう!

12月10日(水)よりファルコムタイトルを購入していただいた方に先着でオリジナル卓上カレンダーをプレゼントするキャンペーンを今年も開催！ アニメーター・川元利浩やイラストレーター・ワダアルコ、窪茶など豪華メンバーによる美麗なイラストで2015年の始まりを飾ろう！ （※店舗によって対象商品が異なる場合があるので、詳細は購入予定の店舗に直接お問い合わせください）



英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ オリジナルサウンドトラック

激動の帝国を音楽で旅しよう!

『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』の劇中で使用された最新曲に加え、Falcom jdk BANDボーカル・小寺可南子が歌う主題歌『閃光の行方』、佐坂めぐみによるエンディングテーマ『I'll remember you』も収録された超豪華２枚組サントラが好評発売中！ 「カレイジャス発進！」「ライノの花が咲く頃」など名場面の思い出と共に楽しもう。3,218円(税込)。





ファルコムニュース

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

コミックマーケット87出展情報

豪華グッズ満載の冬の祭典をチェック!

12月28日（日）～30日（火）、東京国際展示場にて開催されるコミックマーケット87に日本ファルコムも新作グッズを多数取り揃えて出展決定！ 冬にピッタリなパーカーやキュートなチャームなど、ファルコムファンにはたまらないラインナップとなっている。詳細は随時発表していくので特設ページをかかさずにチェックしよう！ （特設サイト→http://www.falcom.co.jp/c87/index.html）



●碧の軌跡Evolution ティオパーカー



●零の軌跡Evolution タペストリー



●零の軌跡 Evolution クリアファイルセット



●英雄伝説 閃の軌跡 ラバーストラップvol.2冬コミ限定セット（10種入り）

ブースにてお買い上げいただいた方には『閃の軌跡Ⅱ』特製ショッパーに入れてお渡しします!

コミックマーケット87でエステル・ブライトのキャラクターソングの先行発売が決定!!

特報!!



ファルコムニュースのコーナーで、年末に行われるコミックマーケット87における出展情報をお届けしていたが、そこにビッグサプライズが飛び込んできた！　なんと、『空の軌跡』の主人公・エステルのキャラクターソングCDの先行発売が決定したのだ！　そこで今回の『人生半キャラずらし』と『コテ放題』は、楽曲の制作に携わったという岡島さん、小寺さんに、その様子をお届けしてもらうことにしたぞ！

「コミックマーケット87日本ファルコム出展情報」特設ページ

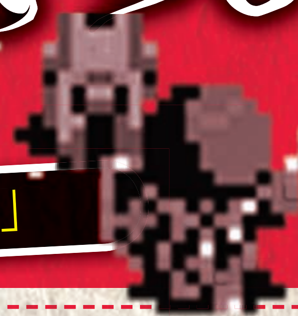
http://www.falcom.co.jp/c87/index.html

●製品情報

Falcom Character Songs Collection Vol.1
エステル・ブライト（CV: 神田朱未）
■収録曲：
01.I Swear...
02. 星の在り処
03.I Swear...（Off Vocal ver.）
04. 星の在り処（Off Vocal ver.）

■キャスト　：エステル・ブライト（CV: 神田朱未）
■価格　：1,500 円（税別）
■発売日　：2015 年 1 月 21 日
（※コミックマーケット 87 にて先行発売）
■発売・販売元：株式会社キャラアニ
http://www.chara-ani.com/

人生半キャラずらし



jdkバンドのドラマー・オカジがファルコムと音楽と人生について熱く語ります！

「エステルキャラクターソング制作秘話」

遂に情報公開である。そう、あの空の軌跡の主人公、エステルのキャラクターソングなるものが発売されるのだ。ファルコムの所謂キャラクターソングってかなり久々なのではなかろうか。僕なんかの記憶だと「ぽっぷるメイルパラダイス」とかあの辺以来？　とか思ってしまうのだが、実際のところはどうなのだろうか。しかし今回はそこを掘り下げる話ではないので、それはまた別の機会にとっておくとしよう。なにしろ、エステルのキャラソンなのである。しかも光栄な事に僕が担当させてもらう事となったので、今回はその制作秘話なんぞを書いてみようじゃないか。

さて、台湾での jdkBAND ライブやらマルイでのイベントやらで多忙を極めた 2014 年 9 月。なんと、そんな最中にこのエステルのキャラクターソングは制作された。実際に台湾でのリハーサルが始まる直前の段階でデモを作っていたような気がする。ちなみに楽曲は「I Swear...」と「星の在り処」の 2 曲だ。なにしろ、あのエステルがどの曲を歌うべきなのか？　という命題に対しては、変化球を投げる必要は決して無く、やはりこの 2 曲が選ばれた。僕の主観にはなるが、「I Swear...」なんて、ゲームのエンディングで流れているのを初めて聴いた時には、エステルが自分の気持ちを歌に乗せて語っているのを聴いているかのような錯覚に陥ったわけで、この曲を外すわけにはいかなかった。そしてそれは勿論、「星の在り処」にも言える事ではあるが。



だが、アレンジに関してはどうなのか。実はこの 2 曲、アレンジという観点からすれば非常にハードルが高かった。「I Swear...」のアレンジものというのは、そんなに多く存在はしないとは思うが、しかし原曲のあの完成度とイメージがあまりに強烈だ。そして「星の在り処」に関しては「星の在り処ざんまい」なんてものまで存在するので、こっちはこっちでアレンジし尽されている感すらある。この 2 曲を改めてアレンジを施してリリースするとなると、かなり思い切った事をしない限り成立しないのは明白だった。

そしてやはり今回、歌唱するのがエステル本人……要するにエステルの声を担当されている神田朱未さんが歌うという事になるわけで、どんなエステルを演じてもらう（歌ってもらう）のがベストなのだろうか？　という事になる。そうなると、やはりエステルの持ち味である明るくひた向きなイメージというのは当然出てくるので、その部分は存分に表現して貰いたい……。そんな経緯から「I Swear...」は王道なポップロックアレンジになった。あの名バラードにメスを入れるのは正直怖かったが、これがなんとも神田さんの歌声とマッチした良いアレンジになったのではないかと思う。そしてもう一曲の「星の在り処」については僕自身がこの曲を何度もアレンジしている事もあり、王道バラードな展開は避け、



岡島俊治（Okaji）

1979年6月9日生まれ
ドラマー/パーカッショニスト/作曲、編曲家/プロデューサー
洗足学園短期大学器楽科打楽器専攻卒業。
2000年、ロックバンド『HeadPhonesPresident』のドラマーとしてデビュー。
2005年、同バンド脱退後はフリーミュージシャンとしての活動を開始。様々なアーティストのサポート、レコーディング、プロデュース等を行う。
2008年より『ファルコムjdkバンド』に参加。
主な共演歴：jdk BAND、Sixh.Opera、HeavensDust、野宮真貴、植村花菜、CORE OF SOUL、DENIAL、安藤禎央、清田愛未、中村幸代、一純悠人、momokomotion、越尾さくら…etc

事なディレクションで神田さんの収録をスムースに進めてくれた。ちなみに本誌掲載の「コテ放題」でも、このレコーディングの事が取り上げられているとかいないとか。というよりもちゃんと締め切りには間に合ったのか。

このことだけが　いつも　おれのこころをしめつけるのだ（Ys1 PC88 版より）

しかし改めて振り返ってみると、これこそまさに弾丸スケジュール！　よくもまあ、こんなスケジュールの最中にこの作品を完成させたものだ。それは褒めてやろう。（←これも Ys ネタ）

今回のエステルのキャラソンは、ファルコムのキャラソンらしいキャラソンをファルコムファンのミュージシャンが思いを込めて作った作品だ。キャラソンとしても、ひとつの作品としてもきっと皆様に楽しんで頂けるのではないかと思っている。……というか、楽しんでほしいなあ。

こちらの作品、先行発売はどうやら今年の冬コミとの情報も得ているので、皆様、楽しみに待っていて頂きたい！

ではまた次回お会いしましょう！

原曲のテイストをまた違った方向に推し進めたスムースジャズアレンジとなった。こちらは、いつものエステルとはちょっと違った、大人な側面を表現できればという気持ちで作ってみたのだが、これもなかなか趣のある仕上がりになったのではないかと自負している。

楽器の録音は、僕が台湾に行っている間に平行して進行した。各々のプレイヤーからレコーディングデータを僕のノートPCに送ってもらい、ライブ会場の楽屋や宿泊先のホテルで確認する……というような、かなり変則的なスタイルでのレコーディングだった。

そして台湾でのライブが終わり、帰国した翌日にはレコーディングデータと合わせてアレンジをブラッシュアップしつつ譜面を作成、さらにその翌日には神田さんのレコーディングを行った。その際には jdkBAND のポンコツ天使との異名を持つ、ディーヴァ・コテカナこと小寺可南子にボーカルディレクションを手伝って頂いた。この時の彼女には、Ys をプレイしているときのヘッポコぶりは微塵も垣間見えず、的確かつ見

コミックマーケット87特設ページ　http://www.falcom.co.jp/c87/index.html

Falcom Character Songs Collection Vol.1
エステル・ブライト（CV:神田朱未）

■収録曲：
01.I Swear...
02.星の在り処
03.I Swear...（Off Vocal ver.）
04.星の在り処（Off Vocal ver.）
■キャスト：エステル・ブライト（CV:神田朱未）
■価格：1,500円（税別）
■発売日：2015年1月21日（※コミックマーケット87にて先行発売）
■発売・販売元：株式会社キャラアニ　http://www.chara-ani.com/

≪Falcom jdkバンドライブ特設サイトURL≫

http://www.falcom.co.jp/jdk/fa_live.html

コテ放題

コテカナことjdkBANDボーカル小寺可南子がゲームと共に、好き放題な日々のことを描くコラム!!

第23回　コテさん、ボーカルについて大いに語るの巻

▶PROFILE



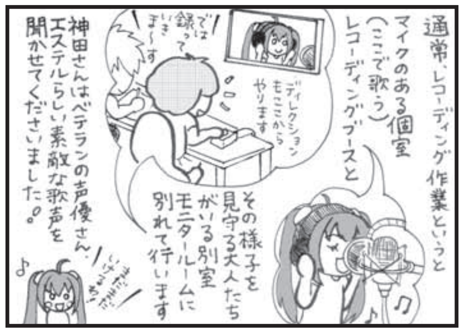
日本ファルコムのゲームソングを奏でる専属バンド "jdkBAND" のボーカル。web ラジオ「ファルコムラジオ " めんどくさいです…でもがんばります "」では声優水橋かおりさんと共にパーソナリティをつとめる。その他 CM ソング、ジングルなど活動は多岐に渡る。
twitter @cana_ko_tera

まいどどうもコテカナでございます！　寒さも一段ときびしくなってきた今日この頃…風邪などひかないようにあったかくしてファルコムゲームを楽しみましょうね！

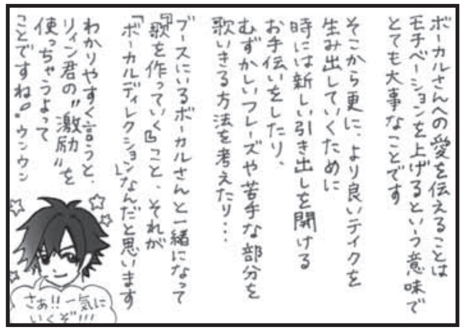
さて今回のコテ放題は「閃の軌跡」クリアで一段落したし、いつものゲームレポからちょいと路線を変えてみようと思います！　というのも、もうご存知の方もいらっしゃると思いますが、ななんと、キャラソンが出るんです！

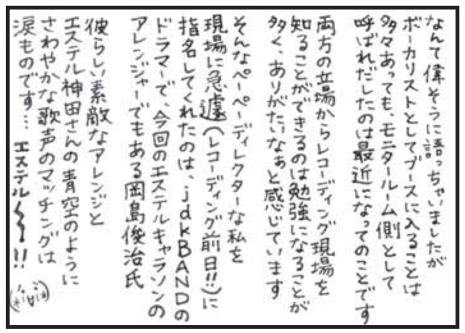
しかも年末の冬コミでゲットできるとのこと！　もうすぐじゃん!!　ずっと「こんな企画あるといいなぁ」と、いちファンとして願い続けてきた私。このお話を聞いた時は大興奮でした！　そしてありがたいことにご縁があり、都内某所で行われた神田朱未さんによる「エステル・ブライトちゃんのキャラソン収録」にボーカルディレクションとして馳せ参じさせていただきました。ここではポンコツゲームレポばかりの私ですが、本職（のはず）のボーカルのお仕事！　ビシっと頑張りました！　そんな小寺目線のレコーディング風景を、ちょこっとですがレポらせていただこうと思います☆















2011年10月から好評配信中のWEBラジオ『ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります』の舞台裏をこっそりお届け♪

> **ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります**
> **■配信日**　毎週金曜日、公式HP、ランティスラジオ、ニコニコ動画にて更新。
> **■メインパーソナリティ**　水橋かおり（『碧の軌跡』ティオ・プラトー役）　小寺可南子（『ファルコムjdkバンド』ボーカル）
> **■公式ホームページ**　http://www.falcom-radio.com/

第157回-第159回　早見沙織（『英雄伝説 閃の軌跡』エマ・ミルスティン役）

157-159回のゲストは、最新作『閃の軌跡Ⅱ』でも大活躍、エマ・ミルスティン役の早見沙織さんが初登場。本誌のコテ放題でもエマ好きをアピールしていた小寺さんが、ひたすら「ハスハス」状態になっていた回となった。また今回は、早見さんに「画伯」疑惑があったこともあり（？）、久々のイラスト企画も登場。そのテーマはエマの相棒である黒猫「セリーヌ」。安定のしおりん、閲覧注意！ なガチくんのイラストはもちろんのこと、早見さんが描かれたイラストも、ラジオのホームページに載っているので、ぜひ見てみよう。

▶第157回-第159回の舞台裏◀

収録で毎回気をつけられていることは、「どこまで作品の中に触れるか」。特に今回ゲストのエマは、作中でも大きな使命を負っているだけに、スタッフは大いに頭を悩ませていた。その結果、冒頭の寸劇は、『ファル学』でもおなじみになりつつある、"○女子"モードがメインとなった。

第160回　なし（ミュージックライブラリ 聴き比べスペシャル）

第160回は、２ヶ月前に一度行われた、ファルコムミュージックの様々なアレンジを聴き比べてみるという、その名もズバリ「聴き比べ」スペシャル。今回は『Zwei!!』の「幻の大地セルペンティナ」が「オリジナル・サウンドトラック」を皮切りに3バージョン。『Ys』の「SEE YOU AGAIN」が「MUSIC FROM Ys」バージョンを皮切りに6バージョンの、全9曲が紹介された。パーソナリティの水橋さん、小寺さんも、しっかりとした原曲と七色のアレンジバージョンに、感心しきりの様子を見せていた。

▶第160回の舞台裏◀

ゲームミュージックといえば日本ファルコム！ というぐらいの歴史を誇っているからこそ生まれたこの企画。特に不朽の名作『Ys』は、ゲームも様々な形でリメイクされていることもあり、多くのアレンジバージョンがあるので、お気に入りの一曲を探してみてほしい。



今月のコテガキ

毎週更新とともに発表される、小寺さん直筆の「コテガキ」を少しだけご紹介！

12月12日発売！
準遊撃士となったエステルとヨシュアの旅は、
ボース、そしてルーアンへ！

小説『英雄伝説 空の軌跡 2黒のオーブメント』

発売前に一挙37ページ試し読み!!

著：はせがわみやび　イラスト：ワダアルコ



『軌跡』シリーズ10周年を迎えた6月にスタートした、小説『空の軌跡』本編ノベライズ。その第2巻が、12月12日にいよいよ発売！　第2巻は「黒のオーブメント」というサブタイトルにはなっているが、ルーアンが舞台の「2章 白き花のマドリガル」が物語の中心だ。そこで今回は、その序盤を一気に37ページも大公開！　これを読んで気になった人は、ぜひ書店やファルコム通販をチェックしてみて欲しい。

■書籍情報
『英雄伝説 空の軌跡 2 黒のオーブメント』　原作：日本ファルコム株式会社（『英雄伝説 空の軌跡』）
著：はせがわみやび　イラスト：ワダアルコ　2014年12月12日発売　1,200円+税　判型：B6正寸　並製　ページ数：264
ISBN：978-4-89610-841-5　発行元：フィールドワイ　発売元：メディアパル

英雄伝説 空の軌跡

2黒のオーブメント

著：はせがわみやび　イラスト：ワダアルコ

※本コーナーは、12月12日に発売される『英雄伝説 空の軌跡 2 黒のオーブメント』の冒頭部分を、本コーナー用に再レイアウトして掲載しているものです。実際の商品とは一部レイアウトが異なりますことを、予めご了承ください。

幕間

空をゆく飛行船の甲板の上。

金の髪を風に躍らせながら、ひとりの青年が手すりに背中を預けて呟いている。

「そう。空賊たちの正体は、没落したカプア家の連中だったってわけ。まさか、リベールに流れついてきているとはね」

囁くような声だが、話しかけている相手は目の前にいない。

金髪の青年の口許をよく見れば、手の中に納まるほどの小さな機械を持っている。

それは、信じられないほど小型の導力器だった。

彼が声を発する度に、機械に埋め込まれた爪の先よりも小さな結晶――七耀石(セプチウム)がチカチカと瞬いた。結晶が声を導力波に変換しているのだ。喋り終わると、今度は隣の結晶が瞬く。それに応じるように導力器から声が漏れてきた。

颪に雲が流れていく。

眼下には、リベール王国の山並みが見えていた。

ボースからロレントへと至る空の道からは北部山岳の雄大な眺めが見渡せたが、青年は景色には関心がないようで、ちらりとも視線を送らない。

「……うん、そう。彼には会えなかった。まあでも収穫はあったよ。料理も酒も美味かったし、美人ともお知り合いになれたし、可愛い子ともお近づきになれたし。リベールには珍しい、黒髪の……ね。おっと焼かないでくれよ」

返ってきた返事は激しいものだったようで、金髪の青年は思わず機械から耳を離した。

「うん……うん……判ってるってば。そんなにおっかない声で怒鳴らなくてもいいだろう。ボクの繊細な耳が壊れてしまうよ。ああ、ボースから今はロレントに行くところさ。そっちもくれぐれも用心しておくれ。宰相殿に気づかれるな。また連絡するよ……親友」

そう言ってから青年は七耀石を指でなぞった。

かちり、と駆動終了を知らせる小さな音が鳴る。

「フフ……相変わらず、からかいがいのある男だな。可愛いねぇ」

「ふうん。携帯用の小型通信器とは、洒落たものを持ってるじゃないの」

掛けられた声に、青年は思わずぎくりと身をすくめた。

ゆっくりと顔を向けると、甲板から船室へと至る扉の影から、銀髪の美女が姿を現した。

「シェ、シェラ君……」

「ツァイスの中央工房ですら実用化できていないシロモノを持っているなんて、侮れないわね、オリビエ・レンハイム。いえ、……帝国の諜報部員さん」

「ああ……、やっぱり気づいていたんだね。さすが、《銀閃》のシェラザード……だから、ボクと飛行船に乗ったのかな?」

オリビエとシェラザードは、エステルたちと別れてロレントへと戻る飛行船に二人一緒に乗ったのだ。エステルは、ずいぶんお互いが気に入ったのね、などと妙な勘違いをしていたようだが……。

「そうね。道化ゴッコはもうお終い。洗いざらい話してくれれば痛くはしないわよ?」

愛用の得物をちらつかせつつシェラザードが言った。

「話せと言われてもねぇ……」

オリビエは肩をすくめると、苦笑いを浮かべた。

「ボクは道化ゴッコを演じていたつもりはないんだ。この性格はいわば地でね。ただ、都合が良いので隠してないだけさ。みんな油断してくれるし」

今度はシェラザードが肩をすくめた。

「それを信じろと?」

「まあ、ご自由に。あと、もうひとつ訂正がある」

「……？」
「これだよ。この導力器(オーブメント)は帝国製ってわけじゃない。帝国領土内で出土した古代遺物(アーティファクト)なんだ」
「古代遺物(アーティファクト)……」
七耀教会が管理しているはずの聖遺物を個人所有しているのだと言い張った。
「忙しい身には何かと重宝するのだよ」
「あんた……いったい」
「何者なのか、って訊きたそうだね。残念ながら、それには今はまだ答えられない。立場としては確かに帝国の諜報員のようなものだ。けれど、ボクがリベールに来たのは、工作を仕掛けたり、極秘情報を盗むためじゃない。人に会いに来ただけなんだ」
「人に……？」
「そう。君もよく知っている人物にね。その男は《剣聖》と呼ばれている」
シェラザードの顔色が変わった。
「ということは……」
「そうさ。剣士にして軍師。大陸に五人といない《S級》の称号をもつ遊撃士。ボクが会いに来たのは――《剣聖》カシウス・ブライトだよ」
まさか、行方不明になっているとは思わなかったけどね。
風が浚ったその言葉を、シェラザードは辛うじて聞き取った。

英雄伝説 空の軌跡 ❷黒のオーブメント

2章　白き花のマドリガル

第八幕　《重剣》のアガット

峠の坂を登りきると、目の前に四角ばった無骨な外見の建物が姿を現した。
街道を塞ぐようにして建っている曲線を排した実用一点張りのそれは、灰色の石を積み上げて造られたボースとルーアンとを分かつ関所だった。
「あれを越えたらルーアンだよ。今夜はあそこに一泊することになりそうだね」
「ねえ、ヨシュア。日も落ちてないし、一気に山を越えて麓の宿屋に泊ったほうがよくない？」
エステルは空を見上げながら言った。
まだ空には青さが残っている。
「途中で日が暮れたらどうするのさ。夜の峠越えは危険だよ。魔獣に襲われて闇雲に逃げて崖から落ちる可能性だってあるし」
「そ、それは確かにイヤかも」

エステルとヨシュアは関所の門番をしている兵士に声を掛けた。自分たちの名を告げながら、徒歩で旅をしているのだと伝える。

「ほう、歩いて王国を周ろうって？」

「うん、修業も兼ねてね」

「その心意気が気に入った！　若いうちはそうでなくちゃいけねえよ」

「えへへ、それほどでも！」

「ただ、さすがにこの山を越す前に夜になってしまいそうですから……」

泊めてくれないか、と二人は持ちかけるつもりだったのだが、エステルたちが言うよりも先に、衛兵のほうが言い出してくれる。

「ああ、なるほどな。いいよ、ここには旅人用の宿泊施設があるから、泊ってけ」

「やった！」

「助かります」

エステルたちは目の前の建物へと入った。中の奥まった一室に、兵士たちの部屋とは別に、旅人たちのために用意された寝室があった。

ベッドは四つ。どうやら四人までは泊れるようだ。

部屋の奥には暖炉があって、ヨシュアがすぐに薪をくべて火を熾した。山の上とあって、日が落ちればあっという間に冷えてくる。すでに肌寒いほどだった。

英雄伝説 空の軌跡 2黒のオーブメント

「あったかぁい……」

「導力を利用した暖房器も出回り始めたけど、薪を使った暖炉に温かさではまだまだ敵わないかな」

「炎って、見てると落ち着くよねぇ」

「安全に燃えていてくれる限りはね……」

ヨシュアが妙にしみじみと言った。

ノックの音がした。

扉が開き、兵士のひとりが「嬢ちゃんたち、夕食はどうする？」と尋ねてきた。兵士たちも食事の時間らしい。

「一緒に食べていいの？」

「おう。軍隊のメシでよければな！」

「ぜんぜん気にしないから！」

んじゃ、できたら呼ぶぜ、と言って兵士は顔を引っ込めた。

「ひとりひとりの軍人さんは良い人なんだよねぇ」

「それも、リベールならではだと思うけど」

「えっ？」

「なんでもないよ。さあ、今のうちに荷物を整理しておこう」

「う、うん」

ヨシュアの言葉が気になったものの、エステルは背負い袋の点検をすることにした。

携行食糧に水筒、野営のときに火種とするための固形燃料。発火装置は、摩擦を利用した簡単な仕掛けだ。遊撃士の《導力器（オーブメント）》を起動させて火の魔法（アーツ）を使用することはもちろんできるけれど、焚火に火を点けるためには大げさすぎる。

このあたりは命に直結するものたちだから常に残り数を確認しておく必要があった。

ナイフとスプーン。銅製のカップ。野外で調理をするために使うものたち。フォークはない。できるだけ荷物は減らす必要があったし、いざとなればナイフで代用できる。

ロープやクサビ、小型のハンマーなどは、遺跡探索用のセットだ。

衣服の替えも少しだけれど持ってきている。

街で交渉などをこなすときのためには、さすがにそれなりの格好をしていないとまずい。あまりないことだとは思うけれど、ボースのときみたいに名士と会う可能性だってある。

だが旅の空の下では、やはり衣服は二の次になってしまう。

それでも飛行船による輸送が始まってから、この手の苦労は減ったのだ。いらないものは箱に詰めて故郷に送ってしまえばいい。必要になれば街ごとに買い直せる。ミラさえあれば。

「でも、あんまり汚い恰好をしていると、ホテルに泊めてもらえなくなったりして」

ふとつぶやいた言葉にヨシュアが反応した。

英雄伝説 空の軌跡 2黒のオーブメント

「高級ホテルだとありうるかもね。そういう店では、立派な服を着ていないと入れてくれないこともあるって言うし。でも……気にしなくていいと思うけど」

そう言ってから、ヨシュアはちらりとエステルを見て、

「気にしなくていいと思うよ」

繰り返した。

「どーいう意味よ！」

「何も言ってないけど？」

「どうせ、あたしは高い服なんてそもそも似合わないわよ！」

「だから何も言ってないってば」

「おうい。メシができたぜ！」

割って入った声に、エステルとヨシュアは思わず顔を見合わせる。

「今、行きまーす！」

声を返しておいてから、慌てて荷物を詰め直す。ヨシュアとともに廊下に出て、待っていてくれた兵士と食堂へ向かった。

軍隊の料理だと謙遜していたが、食事は充分美味しくて、食べ終わる頃にはエステルはヨシュアに突っかかっていたことなど忘れてしまった。

泊り部屋に戻って寛いでいたら、ノックの音がして、この関所の副長をしているという男が

顔を覗かせた。
　もうひとり客が来た。相部屋でいいかと尋ねてくる。
「もちろん！」
　応えてから、エステルは気づいた。すでに日は落ちて外は真っ暗になっている。ヨシュアもほぼ同時に気づいたらしい。
「こんな夜中に客ですか……」
「嬢ちゃんたちの同業者だよ」
　そう言って顔を引っ込める。
　入れ替わるように扉が開いて、その男が入ってきた。
「フン……。オッサンのガキどもだったか」
「あ、あんた……」
「《重剣》のアガット……」
　むっつりしたまま空いたベッドを見つけると、背負った巨大な剣を壁に立てかけてから、荷物をどかっと床に放り出した。
「あんた、メシは？」
「食った。寝床だけ貸してくれればいい」
　そう副長に言い返すと、ごろりとベッドに横になる。腕を頭の後ろで組んで目を瞑った。

英雄伝説 空の軌跡 ❷黒のオーブメント

　副長が苦笑を浮かべながらも、じゃあ、仲良く頼むぜと言いおいて去っていった。
「ちょ、ちょっとあんた」
　無愛想にもほどがある。
　だが、エステルが文句を言う前に、アガットのほうが口を開いた。
「おい、シェラザードはどうした？」
「シェラさんはロレントに帰りました。今は僕たち二人だけです」
　ヨシュアが答えた。
「正遊撃士を目指して王国内を周ろうと思っているの。修業を兼ねて自分の脚だけで旅しているってわけ」
「呑気なガキどもだな」
　そっけなく言われて、エステルはかちんと来た。
「ちょ、ちょっと待って、それはまずい」
　問答無用で背負い袋を今にも投げつけようとしていたエステルをヨシュアが止める。
「あの……アガットさん……」
「おまえら……自分たちが一人前だなんて勘違いしているんじゃねえぞ」
　アガットが目を閉じたまま言った。
「ど、どういう意味よ！」

「ルグラン爺さんから聞いたぜ。だが、空賊逮捕くらいでいい気になるなって言っているんだよ。おまえたち、その事件をシェラザードの手を借りずに解決できたか？」

「そ、それは……」

「確かに難しかったと思います」

「だろうな。それを忘れて浮かれんなってのさ」

「う、浮かれてなんて……。あんたの方こそ、こんな時間に峠越えなんてしちゃってるくせに！　途中で日が暮れたらどうするつもりだったのよ。夜の峠越えは危険なのよ。魔獣に襲われて闇雲に逃げたら崖から落ちた、なんて可能性だってあるんだから！」

エステルは一気にまくしたてた。

半分以上はヨシュアからの受け売りだったが、それはそれでこれはこれだ。

「アホ、鍛え方が違うんだよ。物見遊山と一緒にすんな。こんな時間にココにいることになったのも仕事だ」

「仕事？　遊撃士のですか？」

ヨシュアが聞きとがめた。

「ああ、お前らのオヤジに強引に押しつけられた……」

「え……？」

「父さんが押しつけた？」

英雄伝説 空の軌跡 2黒のオーブメント

耳を疑う言葉に、一瞬エステルとヨシュアは言葉を失い――。

「明日は早いし、寝かせてもらうぜ」

そのまま壁に向かって身体を横にすると布団を引き寄せた。

「ちょ、ちょっと……まさか、父さんと会ったの？　ねえ、あの極道オヤジってば、いったいどこにいて何をしてるのよ！」

「そこまで言いかけて黙ると、故意だとしか思えませんよ……？」

ヨシュアが言ったが、アガットはわざとらしい寝息を立てるばかりで、振り返りもしなかった。どうあっても、それ以上はしゃべるつもりはない――ということらしい。

エステルはため息をついた。

（気になるじゃないのよ……）

ハイジャックから逃れたことまでは判っていたが、エステルの父の行方はいまだに杳としてしれないのだ。

どこにいるのか。

なぜ連絡をしてくれないのか。

何も判っていない……。だからこそ何か知ってそうなアガットを問い質したい。

だが、どうにもならないようだ。わざとらしかった寝息は静かなものへと変わり、どうやらアガットは本当に寝てしまったらしい。

「うー。むしゃくしゃする！　あ、せめて、顔にラクガキくらいしてもいいよね。安眠できると思うんだけど。主にあたしたちが」

「止めなさいってば……」

仕方なくエステルとヨシュアも休むことにした。

その数時間後、関所を魔獣の群れが襲った。

† † †

アガット・クロスナーは、目を覚ますやいなや、立てかけてあった剣をつかんだ。

眠気はとうに覚めている。

静寂を破ったのは、頭に突き刺さるように響く甲高い笛の音だった。

高音部で貼りつくように鳴りつづける高い音は、関所で寝ていた男たち女たちを残らず起こしてしまうほどで、それは危急を知らせる合図なのだ。

「な、なに!?　なんなの!?」

「何かあったみたいだね」

カシウスの子どもたちが付いてきたそうな瞳を向けてきたが、アガットは無視した。

英雄伝説 空の軌跡 ❷黒のオーブメント

遊撃士に成りたてのひよっ子なんかは役に立たない、と思ったのだ。

思いたかった——というのが本音かもしれない。

「おまえたちは寝てろ！」

言いおいて、アガットは部屋を出た。

廊下を駆けつつ、周囲の様子を窺う。関所の建物は、街道を塞ぐように建てられた細長い造りで、出入り口は、ボース側とルーアン側にそれぞれひとつずつ存在する。

笛の音はボース側から聞こえてきた。

関所に駐留している兵士たちが、それぞれの持ち場に着くために走っていた。

笛の鳴った現場へと走っている兵士は四人。見張りは二人いたはずだから、計六人。ひとまずそれで片がつく——と指揮官は判断したのだろう。

国境の関所でもない限りは兵士の数もさほど多くはない。

共に並んで駆けた。

ボース側の街道へと続く扉を開ける。

闇が濃い。

どうやら、月は雲に隠れているようだ。それとも地平線の下にすでに沈んでしまったか……。

扉の左右には導力灯が輝いている。

明かりの前で、兵士が二人、松明を握っていた。燃える炎の先端を闇に向かって突きだすよ

うにして構えている。明かりがあるにも関わらず、わざわざ松明を使うということは……相手は人間ではなさそうだ。

扉の前には半円状に広がる空き地があって、その先に街道が続いている。左右は森になっていた。

アガットと並走してきた部隊の隊長らしき男が叫ぶ。

「報告せよ！」

「狼どもです！」

松明を振って、闇の一角を指し示した。

隊長とともにアガットも闇に眼を凝らす。やや右手の、森の木々が密になっているあたり。

導力灯の明かりを返して、炯炯と光る眼がいくつも見えた。

「魔獣ども……」

隊長が吐き捨てるように言った。

光る瞳の数から推し量ると、六匹ほどはいる……。

ばたん、と背中の扉が開いた。

荒い息とともに声が聞こえてくる。

「加勢するわ！」

振り返ると、案の定、カシウスの子どもたちだった。

「コラ、やめとけ」

「な、なんでよ！」

アガットに向かって突っかかってくる。威勢のいいことだ。

「こいつらに任せとけって言ってるんだ」

「彼の言う通りだ。これは我々の仕事さ！」

隊長が言って、腰の剣を抜き、目の前に掲げて叫ぶ。

「隊列を組め！　迎え撃つぞ！」

部下たちが隊長を中心とする扇の陣形をとる。

得物を構えた。

アガットの見たところ、練度は充分だ。構えから推し量れる腕前も悪くない。どうやら、こいつらだけで片付きそうだな、とアガットが安心した瞬間だった。

笛の音がもうひとつ聞こえてきたのだ。

建物の反対側——ルーアン側から。

「ちいッ！」

アガットは踵を返して扉から建物の内へと戻る。

兵士たちが狼たちと戦い始めるのと同時だった。彼らの加勢は期待できない。残るは関所の中の予備の兵士たちと、ルーアン側の見張りだけだが……。振り返ると、戦っていたはずのひ

とりが戦列を抜けてアガットの後ろを走っている。伝令か。

部屋のひとつに飛び込むと、何か叫んだ。新たな指示を仰ぐために報告したのだろう。

その間に、アガットは反対側の扉へと辿りついていた。指揮系統に縛られないから、場合によっては兵士たちよりも素早く動けるのが遊撃士の利点である。

扉を開けて外を見る。地面に倒れた見張りの兵士の姿が目に入った。気を失っているのか目を閉じたままだ。もうひとりの見張りは、剣を抜いて戦っていた。

「こっちも狼どもか……」

ウルルル……。

低く唸りながら闇の奥から足を踏み出してきた狼の一匹が、脚をたわめて今にも飛びかかってきそうな体勢を取っている。狙っている相手は——倒れているほうの兵士だ。

ばねのようにたわんだ脚を一気に伸ばして狼が動いた。

「させるかぁぁぁぁぁぁあ！」

アガットは背負った剣を留め金からはずすと前へと跳んだ。

倒れた兵士を庇うように割って入り、剣を振る。

あたった。

手に、魔獣の重みがかかる。

気にせず、一気に剣を振り切った。

英雄伝説 空の軌跡 2黒のオーブメント

肉を断つ感触が手に返ってくる。闇の中。黒く濁って見える血を撒き散らしながら、狼は鈍い音を立てて地面に転がった。

「ようし、まずは一匹……」

目をすがめながら、闇へと向き直る。

「さあ、次に俺の獲物になりたい奴はどいつだ？」

影の中から、残りの狼たちが姿を見せる。

八匹だ。先ほどからずっと見張りの兵士と戦っているやつもいるから、ぜんぶで九匹か。ボース側よりも多い。

「チッ……。ずいぶんと盛大な出迎えじゃねえか。しかも……」

じりじりと円を描くようにしてアガットを囲んでくる。

「いくらか知恵が働くようだな」

まるで訓練された兵士のような動きをする……。

一対八。

ぎりぎりか、とアガットが思ったときだ。

「加勢するわよっ！」

声とともにアガットの脇にすべりこんでくる影がひとつ。

誰かは問うまでもない。声で判った。

「引っ込んでろ！」
「邪魔にならないように手伝わせてもらいますから」
もうひとりが、小癪なことを言って、反対側に立った。
エステルとヨシュア――といったか。カシウスの子どもたちだ。
「馬鹿やろう、そんなこと言って――」
怒鳴っている場合ではない。斜め前にいた狼の一匹が突っ込んできた。
エステルに向かってだ。
いちばん弱い奴から狙う、というのが荒野の獣たちの習性だからだろう。誰に教えられなくとも、女と子どもから狙ってくるものなのだ。
「くそっ、言わんこっちゃ――」
エステルを庇おうとするが、狼はアガットが動く前に飛びかかった。だが――。
「なんだと!?」
アガットは目を瞠った。
襲い掛かってきた狼を、エステルは身体を捻る動きだけで避けると、自らの回転の勢いをそのまま利用して、持っていた長い棒――棍――の先端を狼の脇腹へと叩き込んだ。
ギャンッ、と狼が悲鳴をあげる。
いったん後ろに逃げようとした。

その身体に青い水の塊がぶつかって弾ける。
《アクアブリード》！
魔法（アーツ）だ。
誰がやった!?
驚いて視線を左右に走らせるアガットの目に、倒れた狼に短剣の先を向けているヨシュアの姿が映る――こいつか！　魔法に身体の動作は必ずしも必要ではない。だが、多くの遊撃士たちは、魔法を掛ける相手に向かって剣や杖を突きだしたりする。そのほうが集中しやすいのだ。
見れば、ヨシュアの反対側の手は、自らの戦術オーブメントに添えたまま、すでに次の魔法の駆動に入っていた。指のなぞり上げる動きにしたがってクオーツが瞬く。
「エステル、次が来てるよ！」
「わかってる！」
エステルが短く応えて、棍を身体の前で水平に持つと、次の敵との間合いをとった。
この娘は、どうやら魔法に頼るより得物を振るうほうが得意なようだ。隙のない構えを見て、アガットは唸った。
見れば判る。
こいつら――意外とやりやがる。
確かに未熟な所も目につく。だが、さすがに姉弟だというだけあって息が合っていた。

一見、短剣持ちのヨシュアのほうが接近戦向きに思えるが、突っ込んでいくのはどうやら間合いの長い棒術使いのエステルのほうらしい。ヨシュアはそれを魔法で的確に援護している。

カシウス・ブライトの子、か。

「勝手にしやがれ。怪我しても知らねえぞ……俺の《重剣》でな！」

言って、アガットは目をつけていた狼たちの一匹に向かって走る。

ひときわ体格の良い狼がいるのだ。おそらく群れのボスだろう。狼たちの間に、統制した動きが見受けられるというのならば――まずはその頭をつぶす。

指揮官を叩くのは戦いの定石だ。

「うぉおおおりゃああああ！」

喉の奥から迸る叫びを狼たちに向かって浴びせかけた。

明かりを受けて輝く大剣が弧を描いて狼のボスへと躍りかかる。

《重剣》のアガットは、群れを率いる巨狼を一撃で倒してのけたのだった。

英雄伝説 空の軌跡 2黒のオーブメント

第九幕　マーシア孤児院

「挨拶もしないで発つなんて……。やっぱり失礼なヤツよね」

「まあまあ」

街道を歩きながらも怒り続けるエステルをヨシュアが宥める。

関所を抜け、エステルたちはずっと西に向かって歩いていた。二人はルーアン地方に入っている。

あの後――狼の群れに襲われ、それを撃退してから、仮眠を取って目覚めてみると、もうアガットの姿はなく、旅立った後だった。

別れの挨拶も置き手紙もいっさいなし。

共に戦った相手に対して驚くほど素っ気ない態度だと、エステルは思うのだが、ヨシュアのほうはあまり気にしていないようだった。

「でも、たいしたことなくてよかったよね」

「そうだね」

倒されていた見張りの兵士の怪我も些細なもので、やや負傷した者は出たものの、それだけで済んだ。

アガットのおかげだろう。《重剣》のアガットの名は伊達ではなく、改めてエステルたちは

感心してしまった。ひとりで半数近くの狼を倒していたのだ。
戦いが終わった後、ちらりと兵士のひとりが気になることを言っていた。
今までこんなに大勢の狼たちが一度に攻めてきたことはない、と。関所の入り口に取り付けられている導力灯には魔獣を寄せつけない効果があって、今までは飢えに耐えかねて襲ってきても、二匹から多くて三匹というところだったそうである。
気にはなったが——そういうこともあるだろうさ、と言われると、そんな気もしてくる。
峠の道は山肌に巻きつくようにして緩く曲がりながら登っていた。
登りきると、いきなり視界が開けた。
青い水平線が目に飛び込んでくる。
「海だよ、ヨシュア！」
「はいはい。叫ばなくても聞こえているし、見えているってば」
エステルとヨシュアはとうとう大陸の西の端までやってきたのだ。
街道は、そのまま海岸沿いを南へと下っているようだった。つまり、しばらくはずっと右手に海が見えることになる。
「海って、小さい頃に定期船に乗ったときに、上からちらっと見たことあるだけなのよね。こうして見ると、ほんと広～い！」
「僕も海は久しぶりだな……」

崖の下に打ち寄せる波の音が聞こえてくる。潮の香りがエステルたちの鼻腔をくすぐった。
それらは、淡水湖であるヴァレリア湖にはなかったものだ。
「ねえ、ヨシュア」
「ん？」
「歩いてきてよかったよね！」
「そうだね」
波の音を聞きながらエステルたちは海岸沿いを歩いた。
絶え間ない波音に耳が馴れてきた頃に、分かれ道へと行きあたる。
陸はそこから西へと突き出していて、細長い半島になっているようだ。地図によれば、右に進むと、半島の先に建てられたバレンヌ灯台へと行きあたる。左が、海岸沿いにルーアンへと向かう道だった。
エステルとヨシュアは灯台には寄らずに左に折れる。
昼少し前に目の前に小さな村が見えてきた。
「マノリア村だよ」
ヨシュアが教えてくれる。
街道沿いにある小さな宿場町らしい。手前に広がる野原には、可愛らしい白い花がたくさん咲いていた。

潮の香りに花の香りが混ざっている。
「甘い匂い……なんだかお腹が空いてきちゃった」
「あはは。まさに花より団子だね。そろそろ食事のできる処を探そうか」
村に入り、エステルたちは最初に目に着いた食事処に入る。
何かお勧めの食べものはないかと店主に尋ねてみた。
「そうだな。お弁当はどうだい？」
「お弁当？」
「町の外れに風車が建っているんだけどね。見晴らしのいい展望台になっているんだよ。観光に来たお客さんたちは、お弁当を買ってそこで食べることが多いのさ」
「へえ。なかなかいいかも」
「僕たちもそうしてみようか」
エステルとヨシュアは気に入った弁当を買って外で食べることにした。
「早く行こうよ！」
扉を開けて、ヨシュアを急かす。
「エステル、前！」
「へ？」
「きゃあ！」

英雄伝説 空の軌跡 2黒のオーブメント

耳元で声がした。
次の瞬間に誰かとぶつかってしまう。
「あうっ……。いたたた。って、ご、ごめんなさい！」
誰にぶつかったか判らないが、とりあえず謝らないといけない。エステルはお尻の痛いのを我慢して声を絞り出した。
「あ、はい、大丈夫です」と涼やかな声が返ってくる。
顔を向ければ、エステルと同じくらいの年頃の女の子だった。
ショートカットで目の大きな可愛い子だ。瞳の色が光の加減か紫色に見える。
どこかの学校の制服を着ている。青い色のブレザーに、ひだひだのスカート、胸元にはひらひらした白いリボンタイが付いていた。
（あれ？　この制服って、どこかで見たよね）
少し考えて、すぐに思い出した。
ジェニス王立学園だ。
腰から小型の剣を提げているのが制服にはやや不釣り合いだが、飾り剣のひとつも吊るしていないと物騒な世の中だからかもしれない。
「ご、ごめんね。痛くなかった？　ケガしてない？」
ふるふると少女は首を振った。ゆっくりと立ち上がると、優雅にスカートの裾を払う。

「まったく何をやってるのさ」

ヨシュアがやってくる。少女の持っていたらしき花束を拾って手渡した。

「ありがとうございます。私のほうも人を探していて、よそ見をしていたものですから……」

「ん？　人探し？」

「はい。十歳くらいの男の子です。たぶん帽子を被っていると思うんですけど……どこかで見かけませんでしたか？」

記憶をさらってみたが、村に入ってからはそのような男の子は見かけていない。

「見なかったと思う」

「そうですか……。どこに行っちゃったのかしら……」

心配そうな顔つきになっている。

もういちどエステルに謝ってから、少女はエステルたちの来た道とは逆を辿っていった。

† † †

「あの子……」

去ってゆく少女の背中を見送りつつ、ヨシュアが呟いた。

「なあに、ヨシュアってば。あ、もしかして、気になるの？」

英雄伝説 空の軌跡 ❷黒のオーブメント

「えっ、なに言ってるのさ」

「照れないでいーのよ。一目会ったその時から、っていうし。お姉さんにどんどん相談してくれていーんだから」

「……相談っていうのは経験豊富な人にするものだと思うけど？」

ヨシュアが肩をすくめてみせる。

「どーいう意味よ」

せっかく姉としての威厳を見せてやろうと思ったのに。頬を膨らませると、ヨシュアがやれやれと呆れた顔つきになった。

「昔の……知り合いにほんの少し似ていただけさ。それでちょっと驚いただけ」

ちょっと微妙な――辛いことを思い出したような顔つきをされてしまって、エステルは何か言わなければと思ってしまった。とっさに口をついて出てしまう。

「昔の知り合いに似ている……うん、口説き文句としては、三十点ね。って、なにホントに呆れたって顔してんのよ！」

「はあ。……それより、今の制服に見覚えなかった？」

ヨシュアが強引に話題を変えた。

エステルとしても何か墓穴を掘った気分だったので、変えた話題に乗っかる。

「あー。あれよね。ジェニス王立学園」

「まあ、ルーアン地方にある学園だから、このあたりで見かけても不思議はないけど」

「へえ……あれが本物なんだ。清楚で礼儀正しくて、頭も良さそうだったし、空賊のボクっ子とは大違いだわ」

「なに言っているんだか。最初に会ったときはすっかり騙されたくせに」

「うっ……」

「そういえば、あのときもエステルってば妙な勘違いしてたよね」

「ううっ」

「勘違いして、人をからかう暇があったら、遊撃士としてもっと観察力を磨いたほうがいいんじゃないかな。さもないと――」

「判った！　判ったから！　もうからかいません！」

　ふっとヨシュアが笑みを浮かべる。

「よろしい。じゃ、お弁当にしようか。ほら、あそこに風車が見える」

　ヨシュアが指さした。

　見れば、村の南側が高台になっていて風車が回っている。鷹、だろうか。白い大きな鳥が一羽、くるくると風車の上で円を描いて飛んでいた。

　村の外れに建つその風車は、いまだ現役で働いているようだ。

　導力機関によってあらゆる機械が動くようになったとはいえ、風車や水車がなくなってしまったわけではない。小さな村では、今でも風車や水車を利用して粉を挽いたり、水を汲みあげている。

英雄伝説 空の軌跡 ❷黒のオーブメント

　高台に登ると遠くの景色が一望できた。

「うわぁ、いい眺め！」

「海が見えるね」

　目の前を遮るものがなく、崖の向こうに南に広がる海が見えた。

　風車の袂には、展望台として利用できるようにだろう、ベンチが置かれていた。

　ヨシュアと並んで腰掛ける。

「いっただきまーす！」

「いただきます」

　包みをほどいて、エステルはさっそくお弁当に取り掛かった。

「このハム、美味しい！」

　エステルのお弁当は、燻ったハムを挟んだサンドイッチだった。レタスのシャキシャキした歯ごたえに、香り高いハムの柔らかさがよく合っている。マスタードがわずかに隠し味として施されているようで、時々ぴりっと舌にくる。それがまたいい。

　脇に座るヨシュアを見ると、彼のお弁当はパエリアのようだった。

　さすがに海が近いだけあって、魚貝を豊富に利用している。大きめのムール貝が貝殻付きで

中央にでんと乗っかっていた。その周りには、小さめのエビだの貝だのが散っている。

「サフランの良い香りがするな」

　添えられていた簡易の木製スプーンですくって、ヨシュアがパエリアを口に入れた。口の中で何度か噛んでから呑み込む。見ているだけで、美味しそう。

「そのスプーンって、サービス？」

「だと思うよ。まさか、返せとは言われないと思うけど……手作りみたいだし。ほら、ここがちょっと歪んでる」

「へぇ。でも気が利いてるわね！」

「そうだね」

「でも、ホント、美味しそう。あたし、パエリアってちゃんと食べたことないのよね。ねえ、ヨシュア、一口ちょうだい」

「いいけど……交換しようか？」

「うーん。でも、ほんと一口でいいんだけど。ヨシュアが食べさせてよ」

　エステルとしては何気なく言った一言だった。

「食べさせてって……」

「ほらほら早く」

「それは……ちょっと」

英雄伝説 空の軌跡 2黒のオーブメント

　ヨシュアがどうしたものかという表情で、手にしたスプーンと膝の上のランチボックスを交互に見ている。

「いいじゃない。誰も見てないんだし。そんなに恥ずかしがらなくても、子どもっぽいことしたからって笑われる心配はないってば！」

「そういう意味で恥ずかしいわけじゃないんだけどな。まったく……」

　観念したのか。サフラン色のご飯にスプーンを突きたてて、ご飯と貝をいっしょにすくってくれる。貝殻はその前に外してくれた。

（わっ。いちばん大きい貝じゃん）

「いいの？」

「なにがさ？　ほら」

「ん……んぐ」

　スプーンが口から出ていくと、エステルはムール貝といっしょにご飯を噛みしめる。

「んぐ……もぐ……んんん」

　貝の身を噛むときのぷにっとした触感が歯に伝わってくる。身の中の熱い汁がじわっと口の中で広がった。出汁を染みこませた貝のうま味と、塩と胡椒と煮込んだ汁とでシンプルに味付けされたご飯が口の中で混ざる。

（美味しい〜〜〜！）



初めてちゃんと食べたパエリアは、潮の香りがこれでもかと効いていて、エステルはこの料理が好きになった。
「んぐっんん。はあ。うーん。これぞ、海岸地方の代表料理よね。ますます食欲が～～～」
「はいはい。よかったね」
「なによ、その気のない相槌は。えーい。これでも食らえっ」
エステルは食べかけて半分になっていたサンドイッチをヨシュアの口の中に突っ込んだ。
「んぐ！　むぐ………はあ。美味しいけど、いきなり突っ込むのはやめて欲しいかな」
「ふっふっふ。お返しよ」
「それ、お返しの意味が違うよ……」
「んー。美味しかったーーーーっ！」
紙で作られたランチボックスを畳んで、エステルは青空に向かって伸びをする。
風車の上でくるくると回っていた白い鳥がどこかに向かって飛んでいくところだった。
「ねえ。あれ、カモメじゃないよね」
エステルの見ていた鳥にヨシュアも気付いたようだ。
「そうだね。たぶん、鷹か鷲だと思うけど……珍しいね。白い鷹なんて」
お腹もいっぱいになったので、エステルたちはベンチから立ち上がった。もう少しゆっくり休みたいところだったけれど、夕方までにルーアンの街に辿りつこうと思うならば、この村を

英雄伝説 空の軌跡 2黒のオーブメント

そろそろ出なければ間に合わない。
そうヨシュアと話しながら高台から坂を下りていった。
大通りへと戻ってきたところで、角から急に飛び出てきた人影とぶつかった。
「わっ！　あぶなっ！」
「うお。ご、ごめん、姉ちゃん！」
今日は人と良くぶつかる日だな、と頭の片隅で思いながら、エステルは、よろけた子どもを支える。つばの短い帽子を被った、やんちゃそうな男の子だった。赤毛の下の瞳がいたずらっぽい輝きを宿している。
「ん？　帽子？　………ねえ、キミ」
「な、なに？」
「さっき、制服を着たお姉さんが帽子を被った男の子を捜していたんだけど、キミ、何か心当たりある？」
「あー、それそれ。どこで会ったの？」
「そこのお店の前だけど。どこに行ったかまでは……探してあげようか？」
親切心で言ったつもりだったが、男の子は行き先に心当たりがあるからと言って、駆けだしていった。元気よく走りだす姿に、エステルは故郷のロレントにいた子どもたちを思い出してしまった。

（ルックとパット……どうしているかなー）

琥珀の塔で救いだしてから会っていないけれど元気でいるだろうか。

ふと気づくと、ヨシュアが難しい顔つきをして少年の背中を睨んでいた。それから顔をエステルのほうへと向ける。

「気のせいならいいんだけど……。エステル……何か失くしてない？」

「へ？」

言われて戸惑ったが、ヨシュアの真剣な顔に、身体のあちこちを触って確かめてみる。

真っ先に探ったのが財布だが、これはちゃんとポケットの中にあった。それから髪飾り、腰のベルトに通してある導力器（オーブメント）、それから……。

「んー。とくにこれと言って……」

全部あるよ、と言いかけてから、はたと気づいた。

胸元をさぐる――ない。

視線を落として確認して、血の気がさあっと引いた。

「遊撃士の紋章が……」

胸にピン留めされていた身分証代わりにもなる紋章がない。すっかり馴染んで、もはや付けていても意識にも昇らなくなっていたものだが、そういえば何か落ち着かない感じがしたのはこのせいか。

英雄伝説 空の軌跡 ❷黒のオーブメント

「やっぱりね……」

「……やっぱりって、えっ、どういう……まさか」

だが、そうとしか考えられない。

「ランチを食べているときまでは付いていたよ。それは僕が保証する」

ヨシュアが言った。

ということはやはり――すられた。

「子どもが持っていても意味のないものだから、イタズラ心だと思うけど……」

「イタズラ小僧、許すまじ！」

先ほどぶつかった男の子が、エステルの紋章を盗んでいったのだ！

●試し読みはここまで！　続きは12月12日発売の単行本で！

月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.46

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 大場恵美子
デザイン・DTP	さとうだいち
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（ビーニーズ）
発行	株式会社フィールドワイ 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/
制作・販売協力	シナノ印刷株式会社



FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！

今月のプレゼントはこちら!!





① 2名様

❶堀江由衣（アリサ役）＆
伊瀬茉莉也（ラウラ役）
リンクサイン色紙

『閃の軌跡Ⅱ』から、今月はヒロイン達に大注目なプレゼントが到着！　どっちかなんて選べない欲張りなアナタは今がチャンス！

② 2名様

❶早見沙織（エマ役）＆
金元寿子（フィー役）
リンクサイン色紙

こちらもオススメ、まるで姉妹のような委員長とフィーの２人の貴重なサインがこの一枚に！

プレゼントの応募方法

こちらのアンケートの回答を下記のアドレスまでメールにてお送りください。
プレゼントの当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

宛先：
件名：vol.46　プレゼント係

1：お名前（ペンネーム可）
2：面白い→
　つまらない→
　（記事一覧から1つずつ）
3：①
　②
　（はい・いいえ／作品名）
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

【記事一覧】

1：コミック 英雄伝説 閃の軌跡
2：みんな集まれ！ファルコム学園
3：啄木鳥しんきイラストメッセージ
4：閃の軌跡II最新情報
5：アニメ『みんな集まれ！ファルコム学園』最新情報
6：jdkバンドドラマー・オカジの人生半キャラずらし
7：jdkバンドボーカル・コテカナのコテ放題
8：ティオのファルコムラジオめんどくさいです…
　でもがんばりますの舞台裏
9：ファルコムニュース
10：小説『英雄伝説 空の軌跡』第二巻試し読み

アンケート

①最もよくプレイするゲームの機種は何ですか？
②『みんな集まれ！ファルコム学園』で好きなキャラは誰ですか？

特設サイトからも応募ができます!
http://www.field-y.co.jp/root/index.php/falmagap

宛先はこちら➡ falmaga@field-y.co.jp　応募締め切り 12月22日

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、賞品の発送のためのみに利用し、その他の目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後３ヶ月を越えて保有することはありません。